

令和3年度版 中学校英語教科書

Here We Go!

確かな英語力を育む 帯教材の使い方

中学校英語教科書『Here We Go!』は、
3つの特徴ある帯活動用の教材を用意しています。
1回5～10分程度の活動を、年間を通して継続的に扱うことで、
確かな英語力を育むことができます。
本特集では、この帯教材を実際の授業でどのように使うのか、
3名の先生方にご提案いただきます。
明日からの授業に生かせる指導アイデアが満載です。ぜひご活用ください。



Sounds and Letters

小学校の「音と文字」の学びを中学校の「発音とつづり」の学びにつなげ、少しずつ単語や文を読む力を身につけるための教材を、1年の冒頭に設定しました。5分×25回の活動で、1学期が終わるころには、単語や文を読むための基礎的な力が身につく設計です。

私だったらこう使う

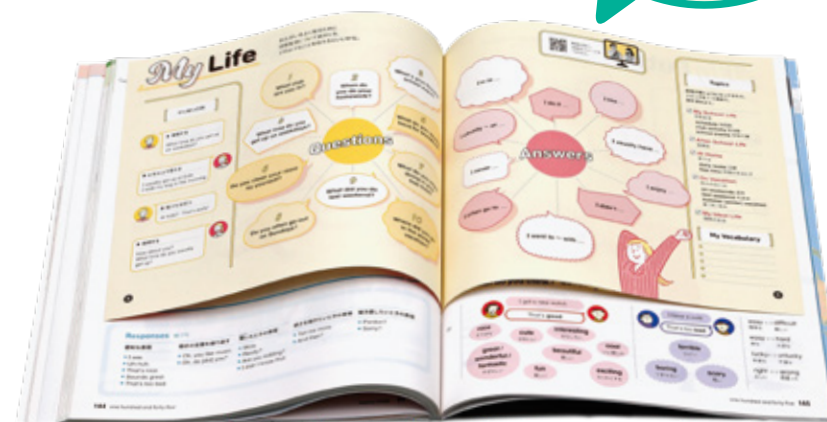
トキワ松学園中学校
高等学校教諭
ひら やま あさ こ
**平山朝子先生の
指導アイデア**
→10ページ

Let's Talk!

即興で会話する力をつける教材です。This is Me, My Life, My Futureという3つのテーマで、友達と即興でやり取りする活動が3年間継続して行えるようになっています。

私だったらこう使う

福島県いわき市立
内郷第一中学校教諭
はた なか ゆたか
**畑中 豊先生の
指導アイデア**
→12ページ



Story Retelling

教科書の巻末に、各Unitのイラストをまとめて掲載。場面を表すイラストと簡単な語句をヒントに、各Unitのストーリーの内容を話す教材です。本文の英語をそのまま再現するのではなく、自分の言葉で話すことで、「話す力」を継続的に伸ばすことができます。

私だったらこう使う

東京都三鷹市立
第一中学校教諭
た なか か な
**田中佳奈先生の
指導アイデア**
→14ページ





Sounds and Letters

トキワ松学園中学校高等学校教諭
ひら やま あさ こ
平山朝子

『Here We Go!』1年冒頭のLet's Be Friends!, Sounds and Letters, Tongue Twistersは、小学校と中学校の学びをつなぐことができる教材です。これらを、1学期中間テストまでの帯活動で扱うことを想定しています。

授業数が仮に20時間あるとすると、最初の7時間はLet's Be Friends!①～⑦、最後の1時間をTongue Twistersに当て、残りの12時間でSounds and Lettersを扱うことになります。以下は、その授業イメージです。

1～8時間目 (子音字と母音字の基礎指導)

最初の1時間は、p.20の子音字01(pig/big)と02(cap/gap)を、音声CDやQRコンテンツの指示に沿って行います。その際、黒板に以下のようなカードを貼り付けておきます。

p ig
b ig



『Here We Go!』1年 p.20

「音に合わせて繰り返しましょう」という指示に従ってリピート活動を行います。どこで声を出せばよいか生徒たちがとまどわないように、生徒が声を出すべき場所では教師が率先して声を出すようにします。また、どちらの文字(単語)を声に出しているのか意識しながら活動に参加してもらうため、音声に合わせて指し棒などで文字に注目させるようにします。

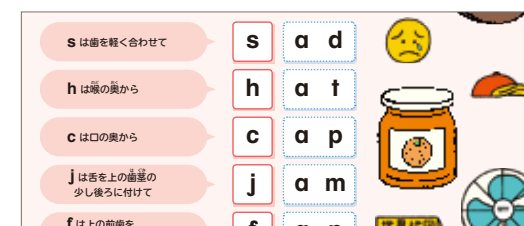
リピート活動の後は「どちらの文字を選びましょう」という活動に移りますが、ここは生徒たちが子音の違いを聞き分けられるかチェックできるチャンスでもあります。生徒たちには、pの音(pig)だと思ったら上を指さすように、bの音(big)だと思ったら下を指さすように指示し、一つ一つ音声を止めて確認しながら進めていきます。

この一連の流れを、02(cap/gap)のカードに貼り替えて同様に行います。毎授業2セットずつ進めていくと、8時間で子音字と母音字の基礎指導を終えることができます。この帯活動1回にかかる時間は6～7分程度です。

9時間目 (文字を音声化できるか確認)

この時間は文字を見て音声化できるかどうか、p.22とp.23を使って確かめます。オンセット(s)とライム(ad)を意識させるため、p.22では、[s]を教師が読み、[ad]を生徒たちに読んでもらうという形で進めます。自信がなさそうなところ

ろ、きちんと音声化できていないところは、音を復習しながら進めていきます。



『Here We Go!』1年 p.22

p.23(図1)では、[m]を生徒たちに読んでもらい、[ix]を教師が読みます。その後はp.23を折線に沿って折り、新しい単語を作ります(図2)。オンセットとライムの組み合わせが変わることで全く別の単語ができることのおもしろさを生徒たちに味わってほしいところです。ここではペアワークにして、生徒1に[s]を、生徒2に[ix]を読んでもらい、教師は机間指導をしながら生徒たちの活動を見守り、最後に全体でもう一度読みを確認するようにします。

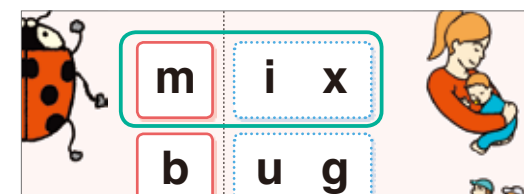


図1

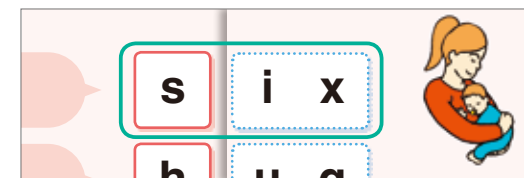


図2

10時間目 (カードゲームで習熟度を確認)

カードゲームを行います。事前に次のような3枚1セットのカードを作っておきます。まず

はp.20に載っている16セットを、クラスの生徒の半数分作ります。

p ig

生徒をペアにしてカードセットを渡し、机の上に全て広げるように指示します。カードは3枚×16セットなので、ペアになった生徒たちの机の上には48枚のカードがバラバラに置かれていることになります。教師は[p], [ig]のようにオンセットとライムを続けて発音し、生徒は上記の3枚のカードを取ります。最終的に多くのカードを手に入れた方の生徒の勝ちです。

11時間目 (母音字の異なる読み方の指導)

p.24の3「母音字の異なる読み方」に取り組みます。「音に合わせて、繰り返しましょう」という活動のところでは、1～8時間目と同様に、教科書に載っている表と同じものを黒板(または電子黒板)に提示しながら行います。Checkまで入れると、約8分程度の活動になります。

12時間目 (2文字の子音字の指導)

p.24の4「2文字の子音字」でSounds and Lettersの活動を終えますが、10時間目に行ったカードゲームは時間が許す限り繰り返して行い、文字と音声のつながりの定着を図りたいと思います。

1年生の初めに、文字を正しく読むための基礎的な力をしっかり身につけることで、生徒たちは、中学校での英語学習を安心して進められることと思います。



Let's Talk!

福島県いわき市立内郷第一中学校教諭
はた なか ゆたか
畑中 豊

『Here We Go!』のLet's Talk!は、即興でやりとりする力をつけられる教材です。4月からの授業の中にどのように取り入れると効果的な学習につながるか、提案いたします。

Let's Talk! をいつ使うか

授業の初めにアイスブレイキングとして行います。質問は各学年26〜27個あるので、週1回の帯活動として位置づけてはいかがでしょうか。長期休暇明けの質問など、複数回使える質問もあるので、1年間ですべてのQuestionsとAnswersを扱うことができます。

教師 Let's enjoy talking in English.

Please do *janken* with your partners.

生徒 One, two, three, go! Go! Go!

(Rock, scissors, paperよりもスピーディーで、勢いがつく、おすすめのジャンケンです)

教師 The winners, ask this question to your partners.

勝者 What did you do yesterday?

相手 Well, I went to the sushi bar with my family. I had tuna and octopus. They were good....

同じことを3回繰り返します(1回目は隣同士、2回目は前後、3回目はクロスというように)。4人グループで行うと、言えなかったところを修正したり、パートナーのうまい表現をまねし

たりと、学習の調整を行うことができます。また、ペアを変えることで常に新鮮な気持ちで活動にのぞむこともできます。

Let's Talk! をどう使うか

1学期は、お互いをよく知るためにThis is Me, 学校生活が軌道に乗ってきた2学期はMy Life, 進級や進学を意識する3学期はMy Future, というように前から順に進めていくのがおすすめです。基本文の定着を図る場合は、メインのコミュニケーション活動として位置づけます。しっかり時間を確保して、⑧ページの「ステップアップのしかた」や「学びをつなげよう」で紹介している活動を行うのもよいでしょう。いくつかの文を話せたかを記録させる場合は、つまずいたときにパートナーがしてくれた助け船もカウントに入れてはいかがでしょうか。名づけて「アシスト・トーキング」。ぜひお試しください。

また、教科書右側のTopics(③)で提案している「会話が续くようになってきたら、トピックを一つ決めて、話を深める」活動を、パフォーマンステストとして学期末に位置づけるのも一案です。その際にQRコードからアクセスできるモデル動画(②)を視聴させれば、生徒は真剣に、繰り返し視聴するでしょう。

Let's Talk! がうまくいかないときは

モデル動画のように生徒が話せるようになるには、何度も何度も、手を替え品を替え指導に

あたるという忍耐力が必要です。英語力はもちろん、クラスの雰囲気や生徒の人間関係などが成否に大きく影響します。教科書左側の「やり取りの例」(①)や、左下のResponses(④)、右下の感想や印象の言い方(学年が進むと語彙も増えています)(⑤)などを存分に活用させたうえで、次のような活動を取り入れてはいかがでしょうか。

学期はじめに行う、カードを使ったゲームです。4人グループでジャンケンをして、1番になった生徒が質問の文を読み、他の生徒が答えとしてふさわしいカードを取ります。スピード勝負は盛り上がります。また、こうかん絵日記(友達の日記を読み、コメントを書く)など、書く活動とリンクさせるのも効果的です。友達の発信にどう反応するか、日頃から鍛えておきたいものです。スピーチやリテリングなど、リスナーを意識

して発信する活動をふだんから行っていると、スムーズなやり取りができるようになります。自分のことを言うときは手を胸に当て、言いたいことがなかなか言えないときは両手を動かし、“Well”や“Uh”といったつなぎの表現を織り交ぜるなど、全力で伝え合う生徒を育てたいですね。

Let's Talk! を行う意義とは

キャリア教育で育てるべき資質能力のひとつに「人間関係形成力」があります。Let's Talk!のねらいは、やり取りする力や即興力を育てることはもちろん、お互いのことをよく知ることによって信頼関係を築くことや、AIにはできない、人と人との心遣いを育むことなのです。生徒が笑顔で話すごとができ、居心地がいいと思える授業を構築するために、Let's Talk! が大きく貢献してくれると思います。

My Life

おたがいをよく知るために、日常会話について話すと、どのようなことを伝えたいのか。

1 やり取りの例

▶ 質問する
What time do you get up on weekdays?
I usually get up at 5:00.
I walk my dog in the morning.

▶ 2文以上で答える
▶ 答づき方
At 5:00! That's early!

▶ 質問する
How about you?
What time do you usually get up?

2 What club are you in?

3 What's your favorite school event?

4 When do you do your homework?

5 What time do you get up on weekdays?

6 What do you usually have for breakfast?

7 What do you enjoy doing in your free time?

8 Do you clean your room by yourself?

9 What did you do last weekend?

10 Do you often go out on Sundays?

11 Where did you go during the winter vacation?

Answers

I'm in ...

I do it ...

I like ...

I usually ~ at ...

I usually have ...

I never ...

I enjoy ...

I often go to ...

I didn't ...

I went to ~ with ...

Topics

会話が续くようになってきたら、トピックを一つ決めて、話を深める。

① My School Life
学校生活
schedule 時刻表
club activity 部活動
school events 学校行事

② After-School Life
放課後

③ At Home
家では
daily tasks 日常
free time 時間があるとき

④ On Vacation
休みの日には
on weekends 週末
last weekend 先週末
summer (winter) vacation 夏(冬)休み

⑤ My Ideal Life
理想の生活

My Vocabulary

144 one hundred and forty-four

Responses 応答

便利な表現
• I see.
• Uh-huh.
• That's nice.
• Sounds great.
• That's too bad.

相手の言葉を繰り返す
• Oh, you like music.
• Oh, do [did] you?
• Really?
• Are you kidding?
• I didn't know that.

驚いたときの表現
• Wow.
• Really?
• And then?

続きを聞きたいときの表現
• Tell me more.
• Excuse me?
• I didn't hear you.

聞き直したいときの表現
• Pardon?
• Sorry?
• Excuse me?

5

I got a new watch.
That's good.

I have a cold.
That's too bad.

easy ↔ difficult
簡単 ↔ 難しい
easy ↔ hard
簡単 ↔ 大変
lucky ↔ unlucky
幸運 ↔ 不運
right ↔ wrong
正しい ↔ 間違っている

nice
すてきな
cute
かわいく
interesting
おもしろい
cool
いい感じの
beautiful
美しい
fun
楽しい
exciting
おどろく
boring
つまらない
scary
怖い

145 one hundred and forty-five

『Here We Go!』1年 Let's Talk!



Story Retelling

東京都三鷹市立第一中学校教諭
田中 佳奈

リテリングに初めて取り組むとき、とまどう生徒がほとんどかと思います。私のクラスも、リテリングに取り組み始めたばかりのころは、沈黙してしまう生徒もいて、自分の言葉で表現するのはこんなにも難しいことなのかと考えさせられました。しかし、5, 6か月の我慢が、年度末には非常に実りのあるものになり、リテリングの効果を生徒も私自身も実感しているところです。

今回は、『Here We Go!』の帯教材「Story Retelling」の活用方法について、これまでの指導経験もふまえながらご紹介します。

「できた」という経験を大切に

Story Retellingの基本的な進め方は、『Here We Go!』のTeacher's Manualにも示されているとおり、ペアでの活動を想定しています。リテリングを行うためには、クラスの状況や学年に応じて、何らかの足場かけが必要ですが、ここでは少し思い切ったやり方を提案します。

始めるタイミングは、1年生の2学期以降を想定しています。リテリング活動の初回は、あえて何のモデルも示さず、生徒に挑戦させてみてはどうでしょうか。当然、思うように言葉が出ない生徒がほとんどですが、そうなったところで、教師がモデルを提示します。話すことが苦手な生徒にとっては、それでもかなりハードルの高い活動です。最初は暗記でもOKということにして、どの生徒にもまずは一言言わせて、達

成感をもたせます。できないところからスタートして、少しでも「できた」ことを実感させるのがねらいです。

活動中に気がついたことはメモさせて、毎回必ず振り返りの時間を設けます。慣れないうちは登場人物のせりふをなぞるだけの生徒もいますが、振り返りの時間を設けることで、友達から学んだり、接続詞や副詞の必要性に気づいたりしてレベルが上がっていきます。リテリングは、話すときだけでなく、聞くときも能動的な意識をもつことが大切だと理解させます。

また、2, 3年生には、“I think”を入れさせて、自分の意見も加えていくなど、教師がレベルアップのための課題を提示することも必要だと思っています。

初回は30分くらいかけて、リテリングの目的や進め方を生徒に丁寧に伝えますが、慣れてきたら、振り返りも含め5～10分以内に抑えて、できるだけ定期的に繰り返すことを大切にしたいものです。

飽きないように変化をつける

『Here We Go!』の本文ストーリーは、キャラクター設定が非常に明確かつ魅力的です。この特徴を生かして、ナレーションとしてのリテリングだけでなく、キャラクターに特化したリテリングを行うこともできます。2, 3年生でしたら過去形、未来形が使えますから、例えば、「ティナになったつもりでIを主語にして話す」

など、設定によって時制や三単現のsを生徒に意識させることができます。2年生になってから、1年生のUnitに戻ってみるのもいいですね。リテリングの内容が充実し、生徒自身がレベルアップを実感できると思います。

パターン化された活動は生徒にとって安心感がある一方、「また、これ?」という気持ちにもさせてしまいます。帯活動として長く続けていくには、このような適度なハードルやアレンジがよい刺激になると思います。

リテリング前のインプットが重要

リテリングのための足場かけをいくら工夫しても、そもそも中身を理解できていなかったり、読めなかったりするのでは発話につながりません。リテリングの前のインプットが非常に重要

です。『Here We Go!』の紙面にはQRコードがついていて、いつでも音声聞くことができるので、家庭での音読練習のときにぜひ活用させたいですね。QRコードからは、アニメーションも視聴できますが、ミュートにして、アフレコみたいにセリフを当ててみるのもおもしろいと思います。

Story Retellingは生徒にとって楽な活動ではありませんが、苦勞したぶんだけ必ず得るものがあります。概要を捉える読み方の練習にもつながりますし、なによりも自分の言葉で表現できる力がつきます。『Here We Go!』は、生徒たちの興味・関心が湧きそうなストーリーですので、少しでも楽しめるよう工夫しながら進めていきましょう。



音声・アニメーションは、各UnitのQRコードから

『Here We Go!』2年 Story Retelling(Unit1)

中学校英語教科書『Here We Go!』は 家庭学習もしっかりサポート!

教科書掲載QRコードから
468の映像・音声等のコンテンツが
視聴可能



中学校英語
QRコンテンツ

音声

本文やリスニングの音声を、繰り返し何度
も聴くことができます。リピーティング、オー
バーラッピング、シャドーイングなどの音読
練習にも最適です。

→ p.10-11, p.14-15の活用例も
ご参照ください。

スライドアニメーション

各Unitの内容に対応したアニメーションで
す。英語力に不安のある生徒でも、本文の
概要を捉えやすく、楽しみながら取り組むこ
とができます。

→ p.14-15の活用例も
ご参照ください。



教科書から
いつでも
手軽に
アクセス!

Let's Talk モデル動画

中学生がモデルとなって1分程度の対話を
行っています。この動画を視聴することで、
実際の対話のイメージをつかむことができ
ます。

→ p.12-13の活用例も
ご参照ください。



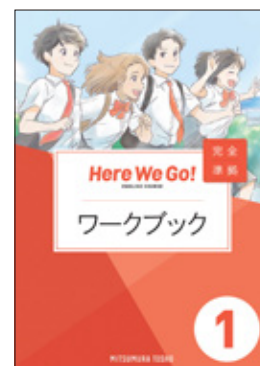
※「QRコード」は、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

『Here We Go!』完全準拠 家庭学習におすすめの生徒用教材

販売:光村教育図書株式会社



商品の詳細・
価格については
こちら



ワークブック	基本文や新出語句などの知識の確認問題を中心に、読解や自己表現問題を含む総合的な問題演習帳。二次元コードに対応したリスニング問題も掲載。
学習サブノート	授業で学んだことを自由に書き込み、自分なりの整理と復習ができる学習ノート。「ふり返し」の欄で自己評価も可能。
基本文型集	基本的な文法・文型の例文を教科書の学習順にまとめた活用例文集。自習に便利な赤色シート付き。
リスニングCD	リスニングや音読の練習に最適な自宅学習用CD。各UnitやLet's Readの本文、新出語句、基本文のまとめのほか、リスニング問題の音声も収録。専用ウェブサイトに用意されたウェブアプリ版を使うこともできます。

学習者用デジタル教科書+教材 Here We Go! ENGLISH COURSE



商品の詳細・
価格については
こちら

音声の再生速度や、Unit本文のマス
キング、本文実写ドラマの字幕表示
など、生徒の習熟度や学習目的にあ
わせて、コンテンツのレベルやパター
ンを選ぶことができます。